



2008 年 11 月 1 日発行  
 発行人：森本 泰暢  
 発行所：〒650-0024 神戸市中央区  
 海岸通 8 神港ビルヂング 509  
 TEL：078-393-0050  
 FAX：078-393-0051  
 E-Mail：[kobekeio@dream.ocn.ne.jp](mailto:kobekeio@dream.ocn.ne.jp)  
 URL：<http://www.kobekeio.org/>  
 編集：堀 友子・齋藤 洋邦

『慶應義塾創立 150 年記念大会』

森本 泰暢 (昭 60 法)

10 月 26 日 (日) 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪) で関西合同三田会が大阪慶應倶楽部主幹で行なわれました。

今回は「慶應義塾創立 150 年記念大会」ということで、我が神戸慶應倶楽部からは 40 名弱 (登録者 44 名) の会員が参加し、祝賀ムードあふれる大会となりました。

記念式典では銭高関西合同三田会会長のご挨拶



に始まり、安西慶應義塾塾長、服部禮次郎慶應連合三田会会長がご祝辞を述べられました。

座談会では「関西塾員へのメッセージ」というテーマで安西慶應義塾塾長、塩川正十郎元財務大臣、荻野アンナ慶應義塾大学文学部教授がお話をされ、会場は和やかな雰囲気になりました。中でも塾長は『未来への先導』について、「慶應義塾の原点そのものであり、国際化、多極化という時代の大きな転換期の中で、いろいろな背景を持つ者が、学生として集まり、語り合い、次代のリーダーになっていかなければならない」と語られました。

また塩川元財務大臣からは「人の力が慶應の力であるので、ペーパー重視の入試ではなく、人を見ることに重きを置いた入試を実践してほしい」とのご意見がありました。

森征一慶應義塾常任理事のご挨拶で記念式典はお開きとなり、続いて祝賀会が 開催されました。

慶應ライトミュージックソサイエティのOBが母体となった“慶應ライトハウスオーケストラ”が

奏でる音色で、小川理子さん、團裕子さんによるジャズコンサート、そして福引き、応援指導部アトラクションと会場は盛り上がり、次回開催の奈良三田会の紹介のあと、若き血を合唱して、お開きとなりました。

創立 150 年にふさわしい、盛大な記念大会となりました。ご参加いただきました神戸慶應倶楽部会員の皆様ありがとうございました。

(2011 年には神戸慶應倶楽部主幹で関西合同三田会が行なわれます)



11 月 8 日 (土) いよいよ「慶應義塾創立 150 年記念式典」が、新装なった日吉キャンパスにて挙行されます。



## 「日中間における習慣・考え方の違いについて」

黄 耀庭(昭29経)

日本と中国との友好と交流をテーマにしてきた私の連載も最終回となりました。

ところで日本と中国とはどちらも漢字を用いているので、「同文同種」といわれることがありますが。しかし実際には習慣や考え方に随分と違いがあると思います。

まず「あいさつ」。日本人の場合、たとえば「いい気候になりましたね」「今日は、あいにくの空模様ですね」など季節や天気の話から入ることが多い。しかし中国人は違います。いきなり「今日、食べたか?」。かつて中国では長年にわたって庶民は貧しい生活を余儀なくされてきました。今日が暑いか、寒いかなんてどうでもいい。とにかく食べるのが最優先でした。その名残だと思えます。今朝も母親から電話がありました。もちろん第一声は「食べたか!」。

次に「水に流す」。日本では「水に流す」といって過去を故意に忘れるか、不問に付すことがあります。しかし中国では違います。過去は忘れるものではなく、現在、未来へとつなげていくものという意識が強く、それゆえ常に歴史を重んじます。だから中国語には日本でいう「水に流す」という意味の表現はありません。

また「水」自体に関する認識も違ってきます。日本は水資源に恵まれてきました。しか

し中国では、揚子江や黄河流域などの一部を除いて、乾燥した地域が多い。水は貴重品でした。以前は風呂に入るのも一週間に一回程度。通常は手足と顔を拭くぐらい。私は今でも水道の蛇口から水が出っ放しになっているのを見ると、どこであろうと栓を締めまわっています。

次は「以心伝心」。日本人には、お互いに気心が知れてくると、ことさら言葉にしなくても自分の考えが相手に通じると思い勝ちですが、そういうことは中国人にはありません。中国では過酷な歴史が続いたために、隣の人を何をしようが自分には関係がない。とにかく自分さえ生きていければいい、という意識が培われました。そういった歴史のなかから必然的に強い自己主張が生まれたのです。はつきり言わないと相手に通じないし、言われないうちは相手の考えを知らうとしない。だから日本では、とくに意識しないまま他の人と同じ考え方や行動をとる人が多くいますが、こういったことは中国ではあまり見受けられません。

中国には「落葉帰根 落地生根」という言葉があります。前者は、他所の国で成功しても、いずれば自国に帰って骨を埋める、という意味。いわば故郷に錦を飾るといいうことで。後者は、自分が今働き生活をしている土

地に骨を埋めることです。日本人は前者、中国人は後者だと思えます。中国人は、その土地で懸命に働いて、その土地の人間として一生を終える。神戸の華僑がそうです。その土地に骨を埋める覚悟があるので、地域への貢献や子弟教育にも力を注ぎます。

これに関連して「十年樹木 百年樹人」という言葉もあります。十年先のことを考えるなら木を育てなさい、百年先のことを考えるなら人を育てなさい、という意味です。神戸の華僑が子弟教育のために、神戸中華同文学校を設立したのも、まさにこの精神だと思っています。その土地に根づく「落地生根」を旨とする以上、華僑社会と自分たちが生活を営む地域社会の発展を担う次代の人材育成の重要性は、何ものにも替えがたいものです。

私は日ごろから「真誠相待」という言葉を座右の銘にしています。これは真心、思いやりの心で人に接するということです。相手の立場に立って相手の気持ちを考える。そうすれば相手もこちらを理解しようと歩み寄ってくれる。お互いに習慣や考え方の違いを認め合うことから本当の相互理解が生まれ、交流が始まります。こういう気持ちがあれば争い事は起きません。日本と中国との関係もそうです。しかしそのためには日々の努力も必要です。私はこれからも日々精進し、日中友好のために少しでもお役に立てればと思っております。

(終わり)

# 会員だより

## 《県庁一帯をセントラルパークに》

金刺 達夫 (昭 42 経)

山手幹線がひとときわ美しい季節になった。広い道路の両脇に植えられた銀杏が黄葉し、中央分離帯のクスノキとみごとなコントラストを見せている。神戸百景を上げよと言われれば、この沿線の県庁から鯉川筋にかけてと、大倉山から神戸駅にかけての二つの道筋を躊躇なく上げたい。ゆったりと湾曲する道路、沿道の建物、季節を彩る街路樹が街並みに風格を与えている。かつて建築家の芦原義信氏が都市の街並みを分析し、道幅 (D) と建物の高さ (H) を D/H 比率という数値にとらえ、1 対 2 がこの場合の黄金比であろうというお説を述べていた\*。わたしはこれに街路樹の高さと葉の茂りを変数に加え、街並みの美しさを説明できないものかとかねがね考えているが、浅学にして果たしていない。

勤め先が県庁の北、相樂園の隣にあり、ふだん県庁周辺をよく散歩する。北と南を山手幹線とバイパスが走っていて、その二つの道路をドラ焼きの皮にみなせば県庁はさしずめドラ焼きのアンにあたる。東の一角、神戸栄光教会から南の県公館にかけては特に美しく、映画のロケに使われることがある。ドラ焼きの中央を垂直に横切る元町駅から北の諏訪山に向かう道も捨てがたい。この道沿い、県公館と県警本部ビル間に空き地があり駐車場に使われている。芝生とカラー舗装で区画され、周囲をトベラやアラカシ、クチナシなどの寄せ植えで囲む、たぶん神戸一こぎれいな駐車場だ。

ただ、一言注文をつければ、奇怪な存在感を示す三棟の県庁の建物がいただけない。市章山と錨山を仰ぐ視界を遮り、なんとも無骨なデザインだ。いっそ県庁を超高層タワービルに収容し一帯を公園緑地化して、木の間越しに集合住宅、劇場、洒落たカフェ・レストランが見え隠れする森の街、セントラルパークに変えたらどうだろう。六本木の旧防衛庁跡に出現した東京ミッドタウンの神戸バージョンだ。北野異人館街と旧居留地を結ぶ中間点にセントラルパークが出現すれば、街歩きを楽しむ人を引きつけ観光にも寄与すると思う。

県が財政難に陥っていることは周知の事実、とてもそんな金はないの一言で切り捨てられるかも知れない。だが、歩くと分かるが、県はこの辺りの大地主のようだ。県庁、県警本部、県公館はもとより、西の総合庁舎、県民小劇場、東の県民会館、農業共済会館、北には職員会館、公社館、女性交流プラザ、数え上げれば十指を越える建物を所有していると見受けられる。これらの、あるものは残し、あるものは壊し、あるものは売却して土地の高度利用を図れば、相当な資金を捻出でき

るだろう。あるいは、PFI を導入して民間ディベロッパーに開発を任せ、県は必要な事務所スペースと保留床を確保すれば腹は痛まない。世界金融恐慌の様相を呈している現在、誰がそんな投資をするか。人の行く裏に道ありで、市況が冷えたのを好機と商売のタネを仕込む人もいる。窮すればなんとやら、オイルマネーを呼び込むという奇手もあるかもしれない。

\*「街並みの美学」 (1979 年) 岩波書店。  
ちなみに経済学部昭和 42 年同窓、杉田忠史君 (東京都板橋区在住) がこの本の出版を担当した。

## 《ウィーン・ドイツ旅行記》

藤井 文明 (昭 39 工)

海外旅行は円安で損ばかりとの声を聞いていたので暫く様子見でしたが、数年前に自宅でホームステイしていたドイツ人女性が故郷のライブチヒで結婚式を挙げるので参列して欲しいと招待状が来たので行って来ました。井上光ご夫妻が同行して下さいました。

折角ドイツまで行くならオーストリアのウィーンにも行きたい、友人知人のいるミュンヘンやベルリンにも行きたいとなり、更に市全体が世界遺産になっているグラーツ、有名なオペラ劇場のあるドレスデンなどの各地を巡ってきました。

最初のウィーンには、この 9 月から我が自宅でホームステイしているドイツ・フンボルト大学からの留学生のお父さんが住んでいるので会って来ました。

次の夜には国立歌劇場前のザッハトルテで有名な店の前でアンサンブル・ラロの主催者ヘーデンボルク・直樹と落ち合い、ソプラノ歌手大島富士子を交えて夕食を共にしながら音楽談議を、翌日には一流のコンサートはチケットが取れないので三流で我慢、お上りさん達相手の誰でも知っているワルツやオペラアリアをたっぷり聞いて来ました。

ウィーンからミュンヘンへは列車で移動、リンツやザルツブルクを通過して行きます。ミュンヘンでは関フィルのヴィオラトップを務めていた中島悦子さんと落ち合い、有名なビヤホール・ホーフプロイハウスで美味しいビールを堪能しました。

ミュンヘンからベルリンへも列車で移動、名歌手のニュルンベルクを通ります。ベルリンでは以前在神戸ドイツ領事館に勤務されていた女性の外交官にお目に掛かり夕食をともにしました。ベルリンフィルは建物を見るだけにしました。

さてライブチヒでは午前中市内を見物し、パッハゆかりの地やゲバントハウス前を通過して堪能

した後、本来の目的の結婚式には小生夫婦のみ参列し、井上ご夫妻とは別行動しました。

ライプチヒからドレスデンへは1時間半くらいで行けます。ゼンパーオーパー（ゼンパーオペラ劇場）の内部を見学、重厚な建物、内部の素晴らしさに感動しました。ドレスデンには泊まらず夕方にはベルリンへ帰り1泊し、翌日の朝出発する便でフランクフルト経由で帰って来ました。

ウィーンでは三流の安いホテル、ミュンヘンも同様、ベルリンは超一流、ライプチヒは1泊2人で20ユーロと言う格安のところで泊まってきましたがそれぞれ趣きがあって楽しめました。さすがに1泊20ユーロのところは共同風呂に共同トイレで少し不自由でしたが清潔にしてあり十分貧乏旅行を楽しめました。

### 《敢えて広く浅い趣味のススメ》

諫山 一彦（昭51法・53文）

「定年になってからでは遅い。今から趣味を作っておかないと・・・」と今春退職した先輩からアドバイスを受けた。それも「一生もの」の趣味を持つという。先輩は物事を極めるタイプで、ある職場で上下で働いた時、とことん深く仕事をした人であった。

私も定年まであと数年。もちろん物事を極めるに越したことはないと思う。しかし、私は性に合わない。妻も元々ピアニストであったからか、一つのことを徹底的にやる。だから、私が昔買った楽器を「はしご」してすべてかじりさしにしていることには全く不満顔だ。フルートにコントラバス、そしてトロンボーンと自宅で楽器店が出来そうと嫌味に事欠かない。

楽器に限らず、私の主義は「趣味は浅く広く」である。昔から「鉄ちゃん」であり、「乗り鉄」「撮り鉄」であるが、とことんこの趣味を極めようとしている訳ではない。天文に憧れ雑誌に星空の写真を投稿したり、映画に凝って学生時代、自由が丘の「武蔵野推理劇場」で年間100本の映画を観たり全く腰が据わらないかもしれない。

最近、こんなかじり趣味が有益であるとの話をたて続けに聞き、意を強くしている。

まず、「生き方上手」で有名な日野原先生は「長生きするには新しいことに絶えず挑戦すること」と言われ、建築家の安藤忠雄先生は「若さを保つにはいろんなことに好奇心を持つこと」と先日ある講演会で話された。

これからも飽くなき趣味を広く浅く追及していこうと思う。そのためには、趣味が続けられる健康を保つことが必要であることは言うまでもないが。

### 《無題》

青戸つぐこ（昭29文）

楽しい話とは打って変わる報告ですが、最近の話です。

9月からこちら、私事です。親戚知人に葬儀が多く、東奔西走しております。その中を私の母は白寿で東京で一人住まいして未だ元気ですが、女学校時代のクラスメート唯一の生き残りだった井上靖夫人が先週亡くなられ、ご葬儀に行きたいけど、かえってご迷惑だからと、我慢しながらさすがにガックリしております。

しかしまあ、親戚の方は誰彼とも幸せな人生であり、天寿を全うされ、むしろおめでたいのですが、若い人が亡くなるのはいけません。

秋葉原事件でも線路に突き落とす事件でも誰でも良いからという殺人は本当に許せません。一人を殺すことはその家族、縁者何人をも悲しみのどん底に落とすのですから。

それが又、殺人でなく不注意からの事故死になると、防げるものだけでもっと辛いことです。

9月初め、親しい知人の甥ごさんが友人と3人でスロベニアへ旅行しました。彼は甲陽でもトップクラス、全国模試でも1・2を争うほどの成績で絵も上手で芸大に進みたかったのですが、親の説得で東大へ入り、空手やワンダーフォーゲルなどと、スポーツマンでした。

さて、この夏休み終わりの旅行中、暑くて、ドナウ川のほとりで一休み。とうとうと流れる大河をスケッチした後、ひと泳ぎしてくると、飛び込んだのですが、友人達の目の前でたちまち呑みこまれ、一旦浮き上がったのですが、すぐ又引きずり込まれるように姿が消えてしまったのです。

知らせを受けた父親が飛んできて、日本の領事館の人や地元の協力で探しましたが、50キロ先にはダムがあり、国境は複雑なところですし、諦めるしかなかったのですが、息子の名前を呼びながら河畔を自転車で走り回っていた父親に伝えてか、奇跡的にその辺で遺体が5・6日して上がったそうです。70キロの身体が90キロになっていたとか。遺体は1週間ほどしてから日本に帰って来ましたが、家族には見せられない状態なのでそのまま茶毘に付したのです。可愛がっていた祖父母、親、従妹たちすべて幸せだった一家が立ち上がれないほどの悲しみの中、葬儀には大勢の友人達が300人も全国から集まったそうです。

その時は健気に振舞った父親でしたが、しかし現在、特に遺体確認をした父親は未だに精神的に立ち直れず、勤めもやめ、その状態が心配で目を放せないで母親も高校の教職を休んでおられます。

若い人や学生さんたちが、世界を旅行しますが日本人の常として、あまりに優しい環境に慣れていて、ルール違反や厳しい風土などに無知な行動をします。川といってもヨーロッパ大陸を何千キロと流れてくるドナウや、ラインの大河。ローレライの伝説でもわかるように船でも危険な箇所が多く、表面は静か



に見えても底は岩が在り、渦を巻きながら複雑な水流を秘めている恐ろしさは日本のそれとは比較になりません。

どうぞこの話を若人への戒めにしてくださいませ。

## 同好会だより

KKJC

### ♪神戸ジャズストリートに参加して♪

塩谷 章 (昭36商)

10月3日～5日、今年で27回目を迎える慣例の神戸ジャズストリートへKKJCの仲間13名とともに参加しました。

小生は前夜祭より参加しましたが、前夜祭はクラウンプラザ神戸で500名を超える聴衆を前に、私達オールドボーイには懐かしいクラリネットの北村英治(塾の先輩)、ピアノの秋満義隆、ヴォーカルの細川綾子を始め、海外8ヶ国からのミュージシャンも加わり、時間が過ぎるのを忘れる程の熱演が行われ、最後にジャムセッションで締めく



くられ、久し振りに高揚感を味わいました。また、大変美味しいフランス料理のフルコースに加え、宮

本さん御夫妻の御尽力により、ステージ正面の特等席での演奏を堪能出来、これで15,000円(翌日のジャズストリート1日券付)は大変お得だと皆さん感想を述べて居られましたが、小生も全く同感でした。

翌日の4日は三宮駅前に集合し、11時より北野に向け演奏パレードが行われ、我々KKJC一行も秋晴れの下、一緒に行進し、昼食後は三々五々各々お目当ての会場で楽しんだ後、夕刻5時半に鍋島先輩が演奏するソネに集合しました。

ソネでは、鍋島直昶カルテットの演奏をバーボン片手に楽しみましたが、昨夜からの疲れが溜ってか、あるいは皆さん加齢現象なのか、セカンドステージ前にお開きとなり、小生にとっては一寸物足りなさはありませんでしたが大変有意義な2日間でした。

### ♪ジャズ忘年会のお知らせ♪

KKJCでは、塾の大先輩鍋島さん(ビブラフォン)や小川理子さん(ピアノ・ボーカル)を特別ゲストにお招きして、ジャズ忘年会を開催します。KKJC以外の会員(家族)の皆さまも歓迎いたしますので、オール慶應で大いにジャズ演奏を楽しみながら、年を送りたいと思います。是非お出かけください。

- 日時 12月13日(土) 12:30～15:30
- 場所 サテンドール神戸 TEL078-242-0100  
神戸・中山手通バックスビル2F
- 出演 鍋島直昶カルテット(オール塾メンバー)  
鍋島直昶(Vib) 小川理子(P Vo)  
澤崎 至(Dr) 嶋仲 潤(B)
- 会費 6500円(ビュッフェ フリードリンク)  
参加ご希望の方は11月29日までに神戸慶應倶楽部(糸海さん)または近藤正(ludy007@kcc.zaq.ne.jp)までご連絡ください。

### 囲碁同好会

●8月1日(金)第1回リーグ戦始まる。  
総勢16人の参加による総当り戦の第1回ということもあり、緊張した中で火蓋が切られた。来年の7月までの長期にわたり熱戦が繰り広げられることになる。

●9月5日(金)通常例会 10名参加

●9月28日(日)29日(月)有馬温泉「兵衛向陽閣」にて囲碁合宿 参加者:12名

今年は関西棋院の大御所、宮本直毅9段をお招きし、指導碁と宴会。指導碁は5人がハンデ2目から5目で挑戦。全員討ち死に。置き碁にて当然前半は圧倒的に黒リード。それが最後の直線コーナーでは皆つかまってしまうわけだから。さすがに、高段者プロの碁は百戦練磨。すごい!感心させられました。宴会では棋界の裏話や天才棋士、井山裕太の幼少の頃の事など話はずみ、宮本プロのざっくばらんなお人柄もあり、時間を忘れるほどの盛会でした。

あと、去年と同じくスイス方式による大会。自分の年を忘れ、夜中1時半まで碁に夢中になっている人が多数。驚かされました。結局、金刺氏が優勝賞金ゲット。

●10月3日(金)通常例会:11名参加

●10月20日(月)第6回カネボー囲碁愛好会との懇親会 場所:打出囲碁クラブ

我が慶應チームは7名の参加。安永氏が相手の大将に初の金星をあげたものの、結果8勝12敗で惨敗。

<お知らせ>

○慶應義塾創立150年記念「オール早慶囲碁フェスタ」

- 1.日時:平成20年12月6日(土)13:00～
- 2.会場:日本棋院(市ヶ谷本院)
- 3.参加者:150人対150人(ハンデ戦あり)
- 4.会費:5,000円

参加ご希望の方は菊田までご連絡ください。

○関西慶應囲碁同好会のホームページ

<http://www.eonet.ne.jp/~akiak/>

活動等が良くわかりますので見てくださ～い!

世話人:菊田義正

## イーゼル会

### 《イーゼル会 秋の写生会》

天木 明 (昭40商)

10月25日、恒例のイーゼル会秋の写生会が開催されました。今回の挑戦の場は有馬ロイヤルゴルフクラブに程近い「石峯寺(しゃくぶじ)」。このお寺、浅学の当方には一向にお馴染みではありませんでしたが、三重の塔など二棟の建物が重要文化財に指定されており、最盛期には一里四方の寺領を誇った古刹とか。

天気予報にはやきもきさせられましたが、幹事の前田さんご夫妻の日頃のお心懸けのおかげか、当日は暑からず寒からずの文句ない写生日和、梅地先生のご指導の下、参加した12名のメンバーが芸術の秋を満喫と云うか、悪戦苦闘と云うか、まあそれぞれでありました。

当日参加していてつくづく感じた事は女性陣の大胆かつ思い切りの良い筆捌きに較べ、野郎共の良く云えば慎重、まあどちらかと云えばオタオタした筆遣い(勿論、中には池田先輩の様に玄人はだしの方もおられますが...)の差。早描きを誇る槌橋さんや前田夫人が終了時刻の1時間も前に自作を完成させて悠然としているのに対し、私を含む何人かのオジサン達は遂にシューベルトの如く「未完成」と相なった次第。レディ・ファーストは塾の伝統でしょうか。最後に一点づつ先生の講評を頂き、舞い上がったり沈み込んだり。本日の最優秀作品賞は廣川さんでした。



あちこちで写生している我々のグループを見た拝観者のご夫妻が、「いいですねー。来年グループ展をされるのなら是非案内状を送って下さい。」と云って下さいました。と、一寸ばかりの自慢話で写生会レポートはお仕舞い。

写生に興味のある方は是非ご参加下さい。お待ちしております。

イーゼル会では、来年秋に第3回グループ展の開催を予定しています。新会員も募集中です。第2・4木曜に例会をしていますので、一度覗いてみてください。世話人：前田 剛資(昭39工)

## 会員の輪

### 《人間ドッグ》

齊藤 裕久(平13経)

初めに、簡単ではありますが、自己紹介させて

いただきます。

慶應義塾には大学からの入学で、大学1・2年生の時には、アレックステニスアソシエーションというテニスサークルに所属し、中学・高校時代に兵庫県、関西エリアでそこそこの戦績を残していたこともあり、1年生からレギュラーとして試合に出させて頂いておりましたが、個人的にはテニスを十二分に楽しんだ記憶はあるのですが、チームの勝利に常に貢献できていたかどうかは定かではありません。また、3・4年生の時代には、鳥居泰彦ゼミに所属し、近年稀に見る学年だどのご指摘を頂戴し、3年生の三田祭の頃まで、「礼儀作法とは」「慶應義塾とは」ということに関してご指導いただき、その基礎が出来上がって初めて、経済学部生として経済学に身を置く事となり、充実した2年間を過ごすことが出来ました。

大学卒業後は鹿島建設に入社し、7年8ヶ月の間に、香川県・愛媛県・神奈川県と3県の営業所勤務に従事し、様々な経験をさせていただきました。そして、昨年2007年の11月末日をもって鹿島建設を退社し、12年振りに関西に舞い戻り、現在のサイモ技研で父親の下、修行しているところでございます。

さて、ようやく標題の人間ドッグの話へと繋がるのですが、昨年の11月末に退社の運びとなったのですが、遡ること2ヶ月。送別会が9月末からスタートし、また関西に戻り、久々に外食ではなく、実家で母親の手料理や関西の懐かしいお店を訪れたりしながら、食事を美味しく楽しく頂いている内に、75キロだった体重が、今年の3月末には84.7キロという未だかつて目にしたことのない数字を経験することとなりました。

会社が変わったことにより、人間ドッグを5月には受診すると言われていたのですが、当時の体重では検診に行ったところで医師から指摘を受けることは必至と考え、3ヶ月の猶予を申し出て、せめて元の体重までにはと3ヶ月間努力いたしました。その結果、74.3キロまで減量に成功し、自信をもって人間ドッグの予約を入れたのですが、油断というものは本当に怖いもので、1ヶ月の間に体重が戻ろう戻ろうとするのです。なんとか受診日当日を迎え、問診時に最近はやりのメタボ検診の為に腹囲を測ることとなるのですが、必死でお腹を凹ましたのが先生にはお見通しだったようで、凹ました分の相当の余裕をもって測られてしまいました。しかしながら、戻ってきた結果は、84.7cmということで、辛くも逃げ切り、3ヶ月の努力が報われることとなりました。

これからどんどんお酒もお料理も美味しくなる季節、例会等で皆様とお会いした際には、「齊藤、最近油断してないか。」と一言お声掛けいただければ幸いかと存じます。

今後ともどうぞ宜しく御願いたします。

## ～～11月例会のご案内～～

日時：2008年11月12日（水）18：30より

場所：倶楽部ルーム

会費：3,000円（弁当、飲料を用意します）

講演：19：00～20：00

講師：野菜ソムリエ 渡邊留美さん（平10環）

テーマ：『野菜を通して見る、マイライフスタイル  
～旬を楽しんで、脱メタボ～』

今年4月に始まった特定保健指導（通称：メタボ健診）が開始された背景から、日本人の食生活の変遷を踏まえ、野菜・果物が体に良いとされながら、なかなか食べられない現代社会のライフスタイルを考えます。また、南国高知の秋の味覚、水晶文旦の中でも珍しい「碧の水晶」をご紹介します。

五感をフルに使って、旬の味わいを楽しみながら、ご自分の食のスタイルを振り返ってみませんか？

☆野菜ソムリエとは、日本ベジタブル&フルーツマイスター協会認定の「野菜と果物のおいしさ、楽しさを理解し、伝えることのできるスペシャリスト」です。

毎日、何気なく食べている野菜と果物には、私たちが想像する以上に、多くの魅力が隠れています。その魅力をさまざまな形で分かりやすく伝え、生活の中で、野菜と果物をもっとおいしく、楽しむお手伝いをさせて頂く、それが、野菜ソムリエです。

### ～事務局よりお願い～

◆例会等にご出席の会員様はお食事等の準備の都合がありますので、必ず事前に事務局までお申し込みをお願いします。なお、当日のキャンセルにつきましては会費全額を頂きますのでご了承ください。

◆住所・電話番号・メールアドレスの変更がある場合は、必ず事務局にお知らせください。

## ～～今後の行事予定～～

11月8日（土）	創立150周年記念式典	日吉
11月9日（日）	連合三田会	日吉
11月12日（水）	11月例会	倶楽部ルーム
11月18日（火）	読書会	倶楽部ルーム
12月6日（土）	家族例会	ポートピアホテル
2009年1月10日（土）	福澤先生誕生記念祝賀会	
1月30日（金）	新年例会	会場未定
2月	例会はありません	
3月18日（水）	例会	東天閣

詳細はその都度お知らせいたしますので、毎月BRBでご確認ください。

### 《今月の絵》



八巻 晤朗（昭40経）

### 編集後記

○いよいよ塾創立一五〇周年記念式典開催です。関連行事に参加できるのも塾員としての誇りです。読書会で「学問のすすめ」もつと勉強しなければ・・・（ほ）  
○卒業してから約一〇年。在学時よりも慶應とのつながりの深い日々を送っています。そして今年迎える創立一世紀半の歴史を思うと、日本全国で活躍する塾生とも深いつながりを感じる今日この頃です。（洋）